

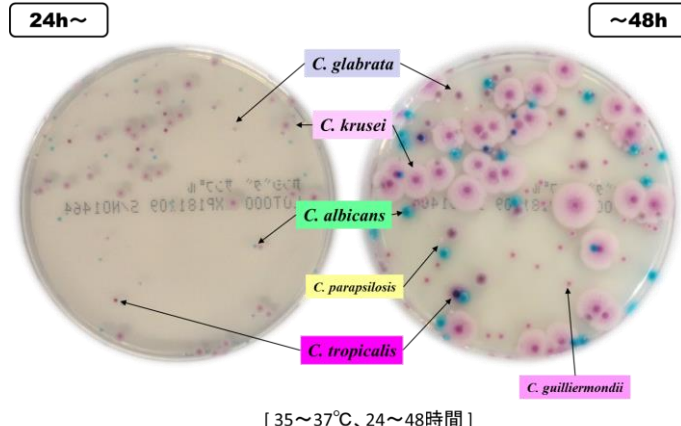
発育性

Q1. *Candida* spp. の発育は良好ですか。また、*C. glabrata* や *C. parapsilosis* の発育は早いですか。

A1. 24～48時間好気培養において、サブロー寒天培地やポテト・デキストロース寒天培地よりも良好に *Candida* spp. を発育させることができます。また、市販品と比較しても同等以上の発育を確認しています。

ただし、*C. parapsilosis* は元々発育の遅い菌種のため、この発育性を利用して本菌の鑑別を可能にしました(*)。

(*) 24時間培養では小集落ですが、48時間培養までに白～淡桃色の色調集落を形成するため、容易に鑑別が可能です。

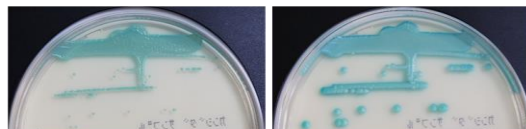


典型集落

24時間

48時間

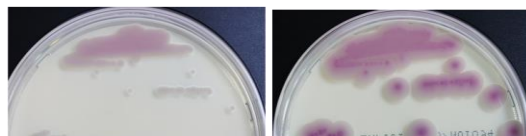
C. albicans



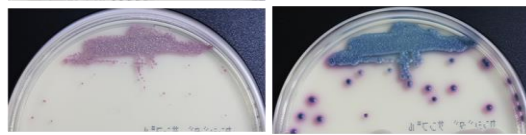
C. glabrata



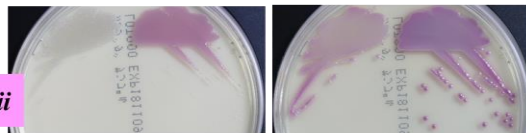
C. krusei



C. tropicalis

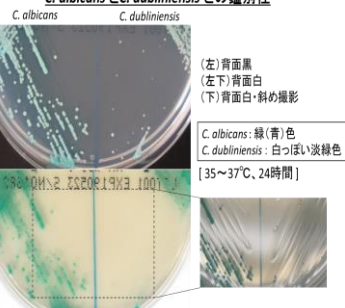


C. parapsilosis



C. guilliermondii

C. albicans と *C. dubliniensis* との鑑別性



典型集落

	典型集落	
<i>C. albicans</i>	緑色	
<i>C. glabrata</i>	くすんだ淡紫色	
<i>C. krusei</i>	中央部 淡桃色 ラフ型集落 (大)	
<i>C. tropicalis</i>	(赤) 紫色集落 → 青紫集落	
<i>C. parapsilosis</i>	白～淡桃色集落	
<i>C. guilliermondii</i>	桃色集落	



発育性 Q2. *C. albicans* と *C. dubliniensis* との鑑別は可能ですか。

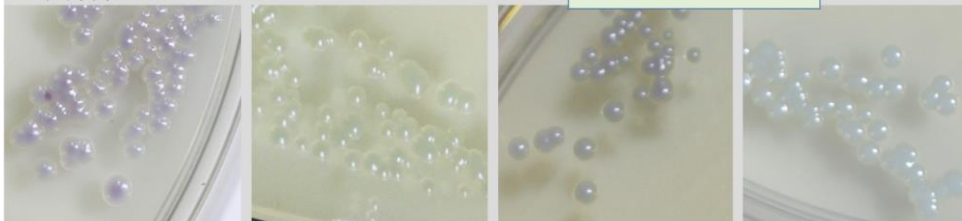
A2. 35～37℃、24～48時間好気培養において、本品では、*C. albicans* と *C. dubliniensis* が緑色集落を形成するため、鑑別は不可能です。ただし、24時間培養時の独立集落をよく確認すると、*C. albicans* の緑色集落に対して、*C. dubliniensis* は白っぽい緑(白緑)色集落を形成する傾向があります。48時間まで好気培養すると色味が濃くなっていくため、鑑別しにくくなります(*)。
(*) 別途、発芽管試験や厚膜孢子形成能の確認、42～45℃での発育性、パードシード寒天培地での培養をお奨めします。

発育性 Q3. *C. glabrata* の淡紫色集落にパラツキはありませんか。

A3. 本品での *C. glabrata* は、基本的に「淡紫色集落」を形成します。菌株による形成集落の濃淡さは若干ありますが、発育良好でサブロー寒天培地上より大きく、従来品ほどその色調差はありません。また、48時間培養にかけて独立集落では集落中央が変色する菌種もありますが、集落全体は「淡紫色」のまま維持されており、代表的な *Candida* spp. と類似した集落を形成しないため、本菌の鑑別は可能です。

【XM-カンジダ寒天培地における*Candida glabrata*の集落】

24時間培養(35～37℃)



48時間培養(35～37℃)



鑑別性

Q1. *Candida* spp. の菌種間の鑑別は明瞭で容易ですか。

A1. (発育性A1.参照) 従来品よりも *Candida* spp. の多菌種で良好に鑑別が可能です。
従来品で発育性(発色の強さ)・鑑別性に不満のある場合は、ぜひ本品をお試しください。

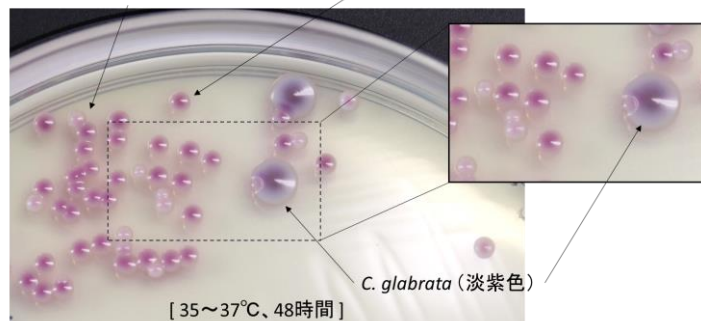
Q2. *C. glabrata* の鑑別性ですが、従来品よりも見難いのです。また、従来品に比べ、*C. glabrata* の集落の色味が異なり、発色が弱いため、*C. albicans* と類似して見えることはありませんか。

A2. 従来品で鑑別可能な *Candida* 陽性株は、3種(*C. albicans*, *C. krusei*, *C. tropicalis*)のみでした。これらに鑑別株として、*C. glabrata* がピンク色調の集落(社内評価で60~70%)を形成しやすいため、本菌を鑑別していません。この色調による鑑別は、*C. glabrata* の全てが示す性状ではないため、他に白色や紫色などの色調を呈することが往々にしてあります(販売元カタログ参照)。また、ピンク色調の集落は、その他の *Candida* でも形成することが確認されているため、集落色調だけで *C. glabrata* を簡易鑑別する際には「偽陽性」に注意が必要です。

本品では、多種の *Candida* 陽性株を鑑別できるように *C. glabrata* を淡紫色調にしました。これにより、従来鑑別しにくかったピンク色調の集落を形成する *C. parapsilosis* や *C. guilliermondii*, *C. lusitaniae*, *C. kefyr* などと容易に見分けがつくようになりました。ピンク色調の集落を形成する菌種を本品で24~48時間培養してよく観察すると菌種毎に色調変化(発色)が異なって見えます。一例ですが、本品での発色に慣れていただくと発育性A1.のような菌種鑑別がある程度可能になります。

桃色系集落を形成する *Candida* spp. の鑑別性

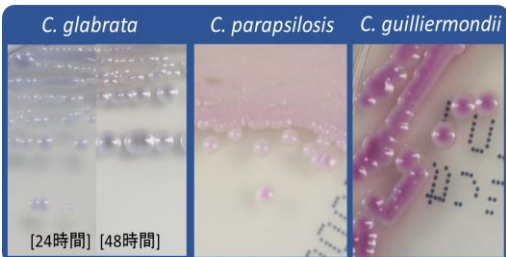
C. parapsilosis (白~淡桃色小集落) *C. guilliermondii* (桃色)



C. parapsilosis の検出頻度(5~30%)に比べ、*C. guilliermondii* の検出頻度(0.5~1%)は大変低いです。また、*C. parapsilosis* の集落は比較的小さく、色調が淡いのが特徴です。これに対して、24~48時間好気培養で集落形成時から比較的ピンク色調の強い集落の場合は、*C. guilliermondii* の可能性があります。

これらの性状から、ある程度の慣れは必要ですが、簡易鑑別ができます[発育性A1.参照]。

ただし、本品は *Candida* 用スクリーニング培地ですので、判定に迷われたり、菌種同定の際には、必ず体外診断薬用医薬品・機器を用いてご確認ください。



C. auris

C. lusitaniae

C. kefyr



C. catenulate

C. sojae

C. utilis

C. haemulonii

C. mangnoliae

C. inconspicua



[35~37°C, 48時間]

<注意> その他の *Candida* spp. の集落は培養例です。臨床分離株で本集落形状(色調)を示すとは限りませんので、判定に迷われる場合は体外診断薬用医薬品・機器でのご確認をお奨めします。



抑制性

Q1. *Candida* spp. 以外の酵母様真菌や糸状菌は発育しますか。

A1. 本品は、*Candida*用スクリーニング培地ですので、基本的にその他の酵母様真菌や *Cryptococcus* spp.、糸状菌は対象にしておりません。しかしながら、基礎培地にサブロー寒天培地を用いておりますので、*Candida* spp. より長く培養することによって、*Aspergillus* spp. のような発育要求性のあまり厳しくない糸状菌や酵母様真菌、*Cryptococcus* spp. などが発育してきます。ただし、糸状菌の形態鑑別を目的とした培養には、(GP加) ポテト・デキストロース寒天培地をお奨めいたします。

Cryptococcus laurentii

48h

35-37°C
48-72h

72h

Cryptococcus spp.

Cryptococcus gattii

Cryptococcus neoformans

Aspergillus brasiliensis

XM-カンジダ サブロー

35-37°C
72h

Aspergillus fumigatus

Trichosporon spp.
(青緑色ラフ型集落)

XM-カンジダ 斜め横からの発育例(孢子形成あり)

Rodotorula spp.

(赤色素産生ムコイド上集落)

Rodotorula spp.

(培地表面赤紫色)



抑制性	Q2. 発育してくる細菌があれば予め教えてください。 A2. 本品は、サブロウ寒天培地やポテト・デキストロース寒天培地のように高濃度の糖類を含んでおり、pH6.0以下に設定することによって、一般的な細菌を抑制し、真菌を良好に発育させます。また、クロラムフェニコールを始めとする選択剤(薬剤)が添加されているため、<i>P. aeruginosa</i> などの細菌もほとんど発育いたしません。よって、本品に発育する菌種は、概ね <i>Candida</i> spp. を含む酵母様真菌か、糸状菌等の真菌類となります。																																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>抑制株</th><th>XM-カンジダ</th><th></th><th>抑制株</th><th>XM-カンジダ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">グラム陽性菌</td><td><i>S. aureus</i></td><td>—</td><td rowspan="9">グラム陰性菌</td><td><i>E. coli</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>S. epidermidis</i></td><td>—</td><td><i>P. aeruginosa</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>S. pneumoniae</i></td><td>—</td><td>MDRP</td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>S. agalactiae</i></td><td>—</td><td><i>A. baumannii</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>S. mitis</i></td><td>—</td><td><i>E. cloacae</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>S. salivarius</i></td><td>—</td><td><i>E. aerogenes</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>E. faecalis</i></td><td>—</td><td><i>K. pneumoniae</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>E. faecium</i></td><td>—</td><td><i>S. Typhimurium</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td><i>B. subtilis</i></td><td>—</td><td><i>S. flexneri</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td></td><td><i>Micrococcus</i> spp.</td><td>—</td><td></td><td><i>S. sonnei</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td colspan="3" rowspan="3"> 35～37℃、72h 接種菌数(10⁸cfu程度) </td><td></td><td><i>H. influenzae</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td></td><td><i>N. gonorrhoeae</i></td><td>—</td></tr> <tr> <td></td><td><i>G. vaginalis</i></td><td>—</td></tr> </tbody> </table>						抑制株	XM-カンジダ		抑制株	XM-カンジダ	グラム陽性菌	<i>S. aureus</i>	—	グラム陰性菌	<i>E. coli</i>	—	<i>S. epidermidis</i>	—	<i>P. aeruginosa</i>	—	<i>S. pneumoniae</i>	—	MDRP	—	<i>S. agalactiae</i>	—	<i>A. baumannii</i>	—	<i>S. mitis</i>	—	<i>E. cloacae</i>	—	<i>S. salivarius</i>	—	<i>E. aerogenes</i>	—	<i>E. faecalis</i>	—	<i>K. pneumoniae</i>	—	<i>E. faecium</i>	—	<i>S. Typhimurium</i>	—	<i>B. subtilis</i>	—	<i>S. flexneri</i>	—		<i>Micrococcus</i> spp.	—		<i>S. sonnei</i>	—	35～37℃、72h 接種菌数(10 ⁸ cfu程度)				<i>H. influenzae</i>	—		<i>N. gonorrhoeae</i>	—		<i>G. vaginalis</i>	—
	抑制株	XM-カンジダ		抑制株	XM-カンジダ																																																														
グラム陽性菌	<i>S. aureus</i>	—	グラム陰性菌	<i>E. coli</i>	—																																																														
	<i>S. epidermidis</i>	—		<i>P. aeruginosa</i>	—																																																														
	<i>S. pneumoniae</i>	—		MDRP	—																																																														
	<i>S. agalactiae</i>	—		<i>A. baumannii</i>	—																																																														
	<i>S. mitis</i>	—		<i>E. cloacae</i>	—																																																														
	<i>S. salivarius</i>	—		<i>E. aerogenes</i>	—																																																														
	<i>E. faecalis</i>	—		<i>K. pneumoniae</i>	—																																																														
	<i>E. faecium</i>	—		<i>S. Typhimurium</i>	—																																																														
	<i>B. subtilis</i>	—		<i>S. flexneri</i>	—																																																														
	<i>Micrococcus</i> spp.	—		<i>S. sonnei</i>	—																																																														
35～37℃、72h 接種菌数(10 ⁸ cfu程度)				<i>H. influenzae</i>	—																																																														
				<i>N. gonorrhoeae</i>	—																																																														
				<i>G. vaginalis</i>	—																																																														
迅速性	Q1. 24時間培養からで <i>C. albicans</i> の迅速な鑑別ができますか。 A1. 本品において、<i>C. albicans</i> は、35～37℃で24時間培養から「淡緑色集落」を形成するため、従来品よりも容易に鑑別が可能です。また、発育良好な <i>C. albicans</i> では、培養22時間程度から淡緑色集落を確認できる場合もあります[鑑別性A2.参照]。 なお、本品はCandidaスクリーニング培地ですので、菌種同定は別途、必ず生化学性状試験や体外診断薬用医薬品・機器を用いてご確認ください。																																																																		
その他	Q1. 発色酵素基質培地のようですが、光の影響はありますか。 A1. 本品は、「発色酵素基質培地」に該当しますので、基本的に直射日光や長時間の光への暴露、高熱下での保存は避けて、冷暗所保存していただきますようお願い申し上げます。 また、夏場30℃以上で7日間実験台に静置した場合や蛍光灯に5時間暴露させた場合において、発色酵素基質の劣化や培養後の集落色調の退色は認められませんでしたので、厳密な保管をする必要はなく、「一般的な生培地」と同様にしてお取り扱いすることは可能です。 ただし、上記のようなストレスを与えた後、冷暗所保存されても記載の有効期限までの保証はできませんので、遮光包材を開封後はお早めにお使いいただきますようお願い申し上げます。																																																																		

